

平成 30 年度学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 平成28年度策定	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>① 課題探究を核とした科学的リテラシーの育成、グローバル教育の研究、思考力・判断力・表現力の育成を旨とした授業研究と進学実績を導き出せる教育課程の研究を行う。</p> <p>② 主体的に学ぶ態度の育成を通し、自己決定力を向上させる。</p>	<p>① 主体的、対話的で深い学びを実現するための授業研究に、通常の授業、探究活動、英語教育の充実などを通して多角的に取り組む。</p> <p>② 探究活動などを通して、主体的に学ぶ態度を育てる。</p>	<p>① 主体的、対話的で深い学びを実現するために、必要な手立て・評価の研究を行う。また、新大学入試への対応の手立てを研究する。GTECの継続的受験により、英語力の向上と生徒の意識向上を目指す。</p> <p>② 主体的な学びを推進するため、授業や探究活動において生徒が自らの考えを表現する機会を増やす。</p>	<p>① 授業研究発表会における生徒の評価が目的に合うものであったか。生徒の探究力及び英語による表現力が向上したか。</p> <p>② 生徒による授業評価項目4において、生徒が主体的に取り組む場面が増加したか。</p>
2	生徒指導 支援	<p>① 自主的に全体的ために行動できる力を育成するとともに生徒自らが学習計画と学校生活のバランス調整できるように組織的な支援体制を確立する。</p>	<p>① 部活動、学校行事などを通して生徒の主体性を育てるための取組を行うことにより、バランスの良い自立した社会人を育てる。</p>	<p>① 学校行事において生徒が主体となり組織的な計画・運用ができるよう支援する。また、相談活動の充実を図り、心身とも健康な学校生活を送ることができるよう支援する。</p>	<p>① 学校行事における生徒の組織的運営状況が向上したか。部活動への加入及び取り組み状況は向上したか。面談や情報交換など支援体制は適切であったか。</p>
3	進路指導 支援	<p>① 主体的学びから進路決定に結びつける進路指導の実現と各種模擬試験などを活用し、高い進路希望を諦めさせずに維持させ、高い進路実績を維持する。</p>	<p>① 継続的な模擬試験や面談などを通して、着実な学力の定着を図り希望進路の実現を目指す。また、自らの将来を見据えた第一志望校の決定とそれを実現するための支援を行う。</p>	<p>① 保護者に向けた情報発信の機会を増やし、学校、生徒、家庭が一体となった支援体制を構築する。また、職員研修の充実を図る。難関大学進学を諦めないための支援を充実させ、結果として難関国公立大学への進学が学力向上進学重点校としてふさわしい数値を達成するよう取り組む。</p>	<p>① 生徒対象及び保護者対象の説明会や面談が効果的に行われたか。その際、蓄積データが効果的に活用されたか。国公立大学進学者が100名、難関国公立大学進学者が20名を超えたか。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	① 学校間連携を進めるとともに、学校活動をいち早く公開し、発信に努め、地域の教育活動へ参画・協働を模索する。	① 広報活動を充実させ、教育活動のアピールを進める。また、生徒が地域で活躍できる場を拓き、地域に根ざした学校づくりを推進する。	① HPによる情報発信及び学校説明会や体験プログラムを通じた学校の魅力発信を行う。PTAや地域との連携を充実させる。また、生徒発表会や生徒派遣などを進め、地域連携を推進する。	① HPによる情報発信が適切に行えたか。学校説明会等の参加者に十分な情報提供ができたか。PTAとの連携が充実したか。生徒が地域で活躍する場が確保できたか。
5	学校管理 学校運営	① 信頼にねざした学校づくりにむけ、事故防止の取組みを推進するとともに学校全体の企画調整機能を強化し、経営課題を横断的かつ組織的に検討し、教育活動の展開・拡充させる。	① 事故不祥事を起こさない学校づくりを進める。また、組織としての教育力向上を図る。	① 事故防止会議のみでなく、継続的な情報提供と意識啓発を行う。また、あらゆる場面を通して、組織的な教育力向上と、安全・安心な環境づくりを進める。	① 事故防止会議は月1度以上適切に行われたか。随時必要な情報提供が行われたか。生徒・職員の活力を引き出す学校づくりができたか。